

家庭学習の すすめ

～基礎・基本の定着をめざして～



<http://www.ome-tky.ed/es/fukiage-es/>

青梅市立吹上小学校

毎日の家庭学習で
学力を伸ばそう！

青梅市立吹上小学校
校長 上里 良彦

家庭は家族の憩いの場であると同時に、子供の教育の場でもあります。基本的な生活習慣を子供が身に付けるまで躡けることは、親の務めとされています。

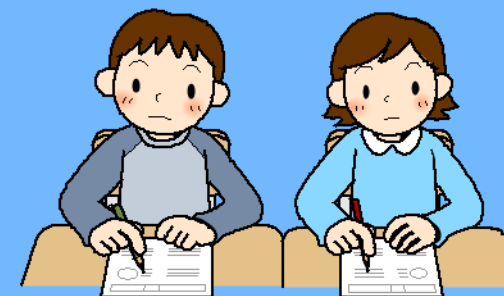
新学習指導要領では、学力の向上にかかわる改訂のポイントとして、「基礎的・基本的知識・技能の習得」「知識・技能を活用する学習活動(思考力・判断力・表現力の育成)の重視」と、それらを支える「学習意欲の向上や学習習慣の確立」が示されています。

学校では、基礎・基本の習得と活用の指導の他に、子供に「自ら学ぼうとする心(学習意欲)と学び方」を身に付けさせることにも力を入れております。そのためには、「わかる楽しさ、できる喜び」を十分に味わわせることが大切になります。

そこで、毎日の家庭学習を習慣づけることで、学校での学習と併せて、学習意欲を高め、さらなる基礎・基本の定着を図り、学力の向上に結びつけていきたいと考えています。

1日の生活の中に、家庭学習の時間を確保しておくというのも基本的な生活習慣の一つです。

保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



家庭学習の位置付け

学校で学習したことを確かめる、思い出す時間を1日の生活の中で確保できるように、ご指導いただきたいと思います。

○ 学習時間

「10分+10分×学年」を目安に、家庭学習が行えるようになってほしいと思います。

学年	時間の目安
1・2年	20分～30分
3・4年	40分～50分
5・6年	1時間以上

家庭学習は時間の多少にかかわらず継続することに意味があります。お子さんのやる気、自主的な取り組みを認めてあげながら、励ましていただければと思います。

○ 学習の場

低学年のお子さんの場合、学習机に座らせて、「勉強しなさい。」だけではうまく進めることができません。習慣付けは時間がかかりますので、食卓等を使って、親子一緒に楽しむ気持ちで行っていただけたらと思います。

また、お子さんと一度話し合っ、家庭学習の計画を立てる場を設けていただきたいと思います。その際、勉強を無理強いするのではなく、遊ぶ時間との折り合いをつけて、お子さんが納得いくようにご配慮ください。

家庭学習

Q&A

音 読

書かれてある文章を声に出して読むことは、正しく意味を理解するとともに、脳の発達にも大きな効果があるそうです。

また、表現力の育成という面からも、毎日継続することが必要です。

○国語の教科書の音読

学習の進度に合わせて、担任から指示があります。

○音読教材の音読

学年によっては、教科書以外の音読教材も使用します。

○図書館の活用

図書館の本を活用して、週末・休日は、読書に代えることがあります。

Q つまづいてばかりで上達しないのですが？

A 長文をただ読んでもあまり効果はありません。短く区切って、同じところを何度か繰り返しましょう。ご家庭の方が読んで後に続いて、追いかけて読むのも効果があります。継続すれば必ず上達しますので、お子さんを責めるのは避けてください。

漢字の読み・書き

その学年で習う漢字、前学年までに習った漢字について、プリントや漢字練習帳、ドリルを使って反復練習をします。

全員が同一の内容、同じ量ではなく、一人一人の必要に応じて取り組めるように工夫していきます。

Q 書き順が正しくないのですが？

A 授業では、筆順や筆の運びについても学習しています。

ただ、自分の書きぐせがあったり、忘れていたりすることがありますので、間違いを見つけた時は修正をお願いします。なお、教科書の各単元の終わりに新出漢字の筆順が出ておりますので参考にしてください。

Q 何度繰り返しても字が上手になりません。

A 頭に思い描いた字を練習するのではなく、手本をよく見て書くことが必要です。また、鉛筆の持ち方も確かめてみてください。持ち方が悪いと、うまく鉛筆を動かせないだけでなく、長時間書き続けることができません。矯正具もありますので、担任へご相談ください。

計算問題

整数、小数、分数の四則計算を中心に、プリントやドリルで反復練習をします。

これも、全員が同一の内容ではなく、助言を行いながら、つまづきが見られる内容や、練習が必要な内容を中心に取り組んでいきます。

Q プリントでわからない問題があった時は？

A ご家庭の方が教えてかまいません。ただ、答えを教えたり代わりに解いたりするのではなく、お子さんの補助としてアドバイスをお願いいたします。また、解けなかったところ、ご家庭の人に手伝ってもらったところがわかるようにしておいていただくと、担任の方でも補足することができます。

Q 親が習ったときと計算の仕方が違うので、教えられません。

A 小学校で学習する四則演算については、基本的に計算方法、手順は変わっていません。ただ、子どもたち自身に計算方法を考えさせることに重きが置かれているため、教科書などの取り上げ方が違っていたり、「繰り上がりの印の位置」「繰り下がるの印の位置」などの書き方が違っていたりすることがあります。もちろん「明日、先生に聞いておきなさい。」ということでも結構です。正しい計算の方法の定着とともにご家庭の方にお子さんの学習状態を把握していただくという狙いもありますので、つまづきを見つけ次第、学校と家庭で協力して修正を行っていきたく考えています。

作文・日記

学校や生活の中での出来事、自分の思いなどを、国語の作文の学習と関連させて、家庭での宿題に取り上げることがあります。また、学年によっては、日記として取り組むことがあります。

辞書を引しながら文章を書けるように取り組んでいきます。

Q 間違った書き方をしていたのですが？

A ご家庭の方が指摘するのではなく、お子さんに読み直させて、間違いに気付かせてください。

ただ、作文の場合は、自分の感じたことをのびのびと表現することも大切ですので、やり直しが多くなって書くことが嫌いになるようなことは避けてください。